

第105回 実は隣のスゴイ人



3comfy 代表
豊永 雄二さん

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらおうこのコーナー。前回のスゴイ人、平林かおりさんにご紹介いただいたこの方は「同じ建築を学んだ仲間、自ら道を切り開き建築業で活躍している雄二。昔から変わらず努力を積み重ね、誰にでも優しく誠実に向き合う人柄が魅力のスゴイ人」とのこと。

め、日中は現場で働き、夜は勉強に励む日々を送りました。

「資格取得に挑戦できたのは家族の支えがあったからです。家事は夫婦で分担し、子ども達も洗濯物をたたむなど手伝ってくれるので助かっています」

建築の現場は一つとして同じものはありません。現場調査を行い、無事に施工を終えたときの達成感は格別です。完成後、お客さまの笑顔や「お願いしてよかった」という言葉が何よりのやりがいだと話します。施工後のアフターケアにも迅速に対応しています。

「自分一人では仕事はできません。屋根板金やサッシなど、さまざまな職人さんがいるからこそ建物が完成します。人とのつながりを大切にし、いつまでも謙虚な気持ちで忘れずに仕事を続けていきたいです」

屋外での作業が多いため、この時期は暑さとの戦いでもあります。体調管理に気を配りながら、一つひとつの仕事に向き合っています。

「地元根付き、気軽に声をかけてもらえる存在になりたいです。人生は一度きりなので、さまざまな分野に興味を持ち、これからも挑戦を続けたいです」

地域に根差した大工として、お客さまとのつながりを大切にしながら、豊永さんの挑戦はこれからも続きます。

今回は、末吉町諏訪方で建築業「3comfy」を営む豊永雄二さんにお話を伺いました。大隅町出身の豊永さんは保育園の頃、実家を建てた大工の姿に憧れを抱き、「将来は大工になる」という夢を持ちました。岩川高校建築科、宮之城高等技術専門校で建築大工の技術を学び、卒業後は大崎町の工務店に就職。19年間にわたり現場で経験を積み、令和4年に独立しました。

「長男が『建築関係の仕事をしたい』と言ってくれたことが独立を決意するきっかけでした。自分自身もさらに経験を積み、子どもに伝えられることを増やしたいと思いました」

現在は、打ち合わせや見積りもの作成から施工、アフターケアまで、一人ですべてを担っています。一般住宅の新築やリフォーム、店舗改修、エクステリア工事などを手掛け、市内だけでなく都城市や霧島市からも依頼が寄せられています。

「イメージと違った」ということがないように、お客さまとの打ち合わせは特に大切にしています」

打ち合わせから施工までを一貫して担うからこそ、お客さまの思いを細かく形にできることが強みです。豊永さんは、2級建築士、1級建築施工管理技士、1級技能士（建築大工）の資格を取得しています。働きながら資格取得を目指した